

わかりやすい「スマートシティ」に向けて

昨年、高松市は、情報通信分野での先進的な取り組みを進める国のモデル事業「データ利活用型スマートシティ推進事業」の採択を受けました。この「スマートシティ」というもの、広狭いろいろな定義がありますが、一般的には、「IoT (Internet of Things : モノのインターネット) をエネルギーや生活インフラの管理に用いることで、生活の質の向上や都市の運用およびサービスの効率向上、そして都市の競争力をつけ、現在と次の世代が経済・社会・環境の観点で需要を満たすことができるような都市のこと」とされています(注)。新しくできた「官民データ活用推進基本法」に基づいて、各種データを共通のプラットフォームに乗せて収集分析し、その課題分野においての最適な政策判断をするなどのために役立てていこうとするものです。高松市では、産学民官で「スマートシティたかまつ推進協議会」なる組織を立ち上げ、まず防災と観光の分野において取り組みを進めることとしています。

この「スマートシティ」。何かびったりとくる日本語(漢語)でわかりやすくできないでしょうか。最先端の科学技術の一つである情報関連の用語は英語をそのままカタカナ言葉で表すのは仕方ない面もあります。しかし、AI = 人工知能のように翻訳された言葉も同時にあった方が一般に理解しやすいことは確かです。

今年が明治維新150周年に当たります。近代国家への道を歩み始めた明治初期には、西洋の学術思想を取り入れるにあたって、翻訳が重要な役割を果たしました。そのうち、特に際立った業績が、近代日本哲学の祖と言われる西周(にしあまね)が考案した近代漢語です。「philosophy」を「哲学」と訳したのも、「経済学」「文学」「心理」「藝術」「自由」などの言葉を創作して我が国に定着させたのも彼だそうです。その「半端ない」西洋啓蒙思想の理解力と漢語の知識の深淵さに圧倒される思いです。西周が今日のデジタル社会において飛び交う横文字の言葉を何と訳すのか。聞いてみたい気がします。私流ではスマートシティ = 賢省都市。あるいは、健能都市。できるだけわかりやすい言葉でスマートシティの実現に向けた施策を進めてまいりたいと思います。

(注) 「Sustainable Japan」(<https://sustainablejapan.jp/>) から引用